
2008年3月期 決算

2008年5月9日
住友商事株式会社

トピックス

1. 2007年度決算総括

2. 2008年度業績見通し

3. GG Planの進捗状況

4. 収益基盤の質の向上

5. 株主還元

将来情報に関するご注意

本資料には、当社のGG Plan等についての様々な経営目標及びその他の将来予測が開示されています。これらは、当社の経営陣がGG Planを成功裡に実践することにより達成することを目指していく目標であります。これらの経営目標及びその他の将来予測は、将来の事象についての現時点における仮定及び予想並びに当社が現時点で入手している情報に基づいているため、今後の四囲の状況等により変化を余儀なくされるものであり、これらの目標や予想の達成及び将来の業績を保証するものではありません。したがって、これらの情報に全面的に依拠されることは控えられ、また、当社がこれらの情報を逐次改訂する義務を負うものではないことをご認識いただくようお願い申し上げます。

1.2007年度決算総括

①主要損益項目

(億円)	07年度計画	増減	07年度実績
純利益	2,350	+39	2,389
基礎収益*	2,257	△286	1,971
(除くヘッジ損益**)	(2,300)	(△108)	(2,192)

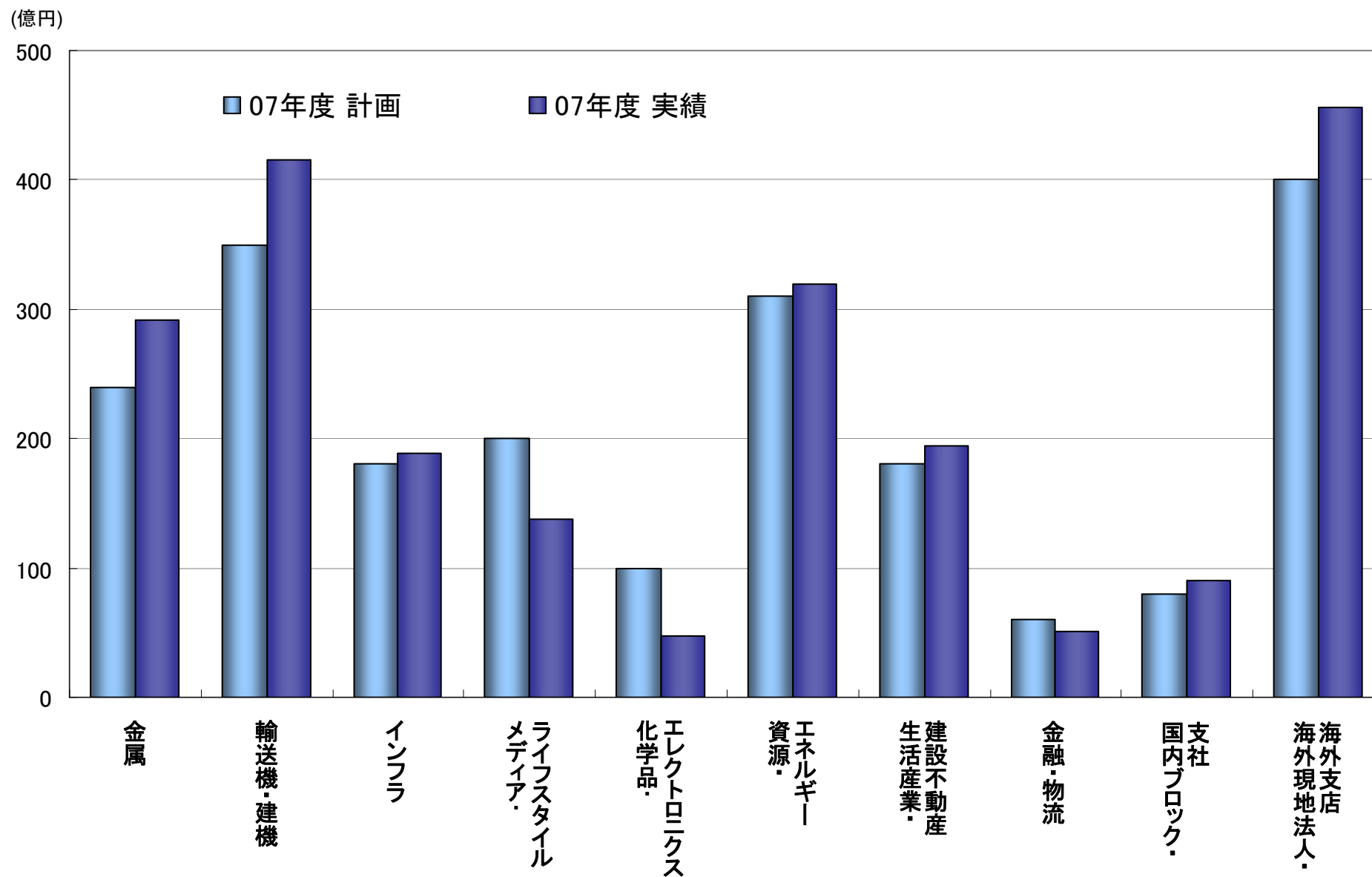
*基礎収益 = (売上総利益 - 販管費 - 利息収支 + 受取配当金) × 59% + 持分法損益

**サンクリストバル銀・亜鉛・鉛鉱山に係るヘッジ損益(計画△43億円→実績△221億円)

- 純利益は、当初計画を達成し、5年連続で最高益を更新
- サブプライムローン問題の影響は限定的

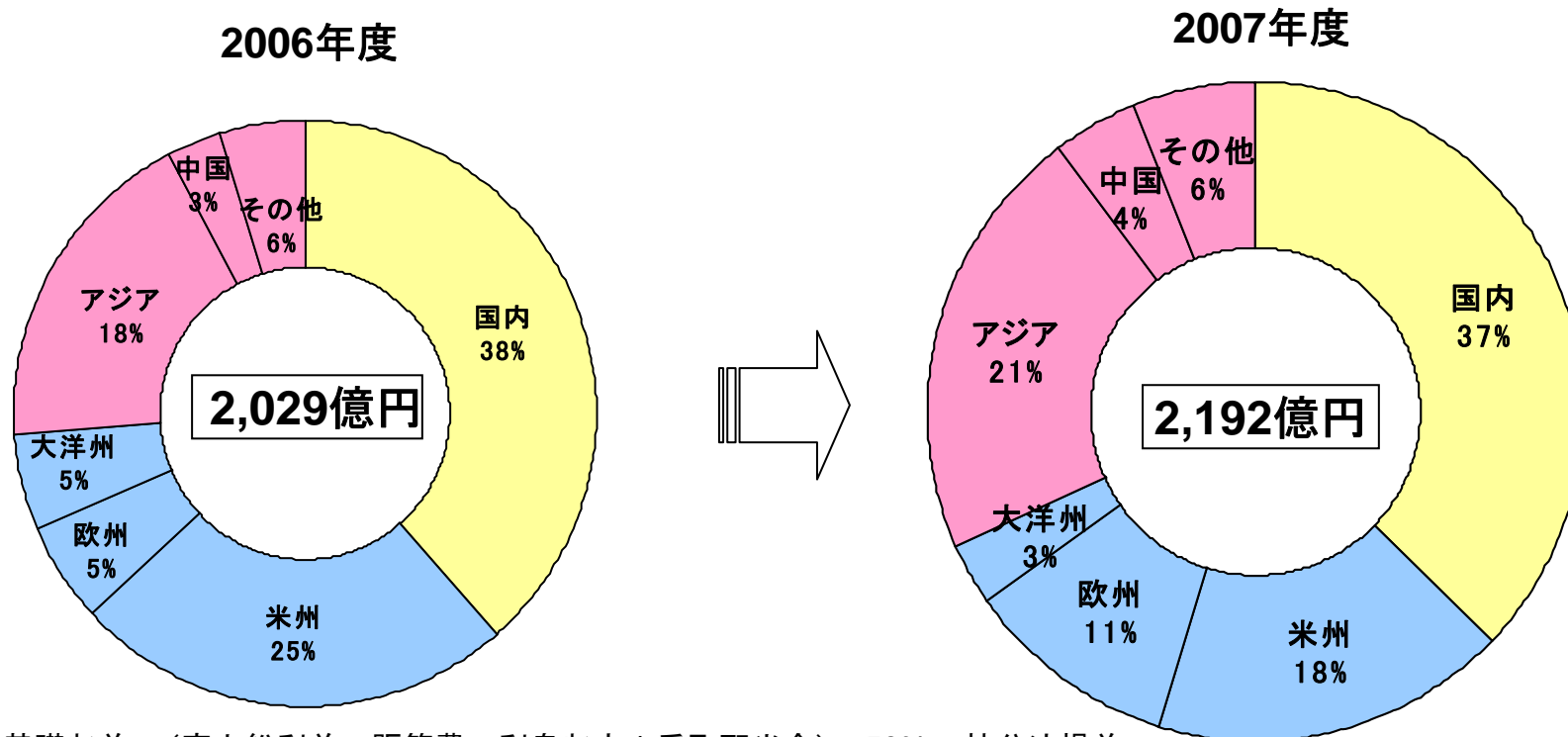
1.2007年度決算総括

②セグメント別純利益



1.2007年度決算総括

③地域別基礎収益



注) 基礎収益 = (売上総利益 - 販管費 - 利息収支 + 受取配当金) × 59% + 持分法損益

2007年度はサンクリスタル銀・亜鉛・鉛鉱山に係るヘッジ損益(△221億円)を除く

- 06年度⇒07年度 : 163億円(8%)の増益
- 米州 : 小売・住宅関連／鋼管事業が減益
- 欧州 : 金属／建機事業が増益
- アジア・中国 : 電力／銅／スチールサービスセンター事業が増益

1.2007年度決算総括

④主要経営指標

	06年度末		07年度末
総資産	8兆4,305億円	【総資産:△8,500億円】 ●戦略的投資等: +2,300億円 ●リース・オートリース再編: △8,800億円 ●株価低迷 及び円高の影響: △2,000億円	7兆5,714億円
株主資本	1兆4,731億円		1兆4,927億円
株主資本比率	17.5%		19.7%
有利子負債(Net)	2兆9,133億円		3兆2,476億円
DER (Net)	2.0倍		2.2倍
ROE	15.2%		16.1%
ROA	2.8%		3.0%

2.2008年度業績見通し

①世界経済見通しと前提条件

- 
- ・サブプライムローン問題の影響で、世界経済の成長は鈍化
 - ・リスク要因は、原材料の高騰、円高及び金融市場の信用収縮

前提条件		07年度 実績	08年度 前提	センシティブイ
為替 (¥/US\$:平均)		113.8	105	約7億円 (1¥/US\$)
金利	LIBOR 6M (YEN)	0.94%	1.0%	—
	LIBOR 6M (US\$)	4.7%	3.0%	—
原油<北海ブレント> (US\$/bbl)		73	90	1億円弱 (1US\$/bbl)
原料炭 (US\$/MT)*		85~98程度	285~300程度	—
銅 (US¢/lb)		323	325	0.3~0.6億円 (1US¢/lb)

* 市場情報に基づく一般的な取引価格

2.2008年度業績見通し

②主要損益項目

(億円)	07年度実績	増減	08年度計画
純利益	2,389	+41	2,430
基礎収益*	1,971	+456	2,427
(除くヘッジ損益**)	(2,192)	(+197)	(2,389)

*基礎収益 = (売上総利益 - 販管費 - 利息収支 + 受取配当金) × 59% + 持分法損益

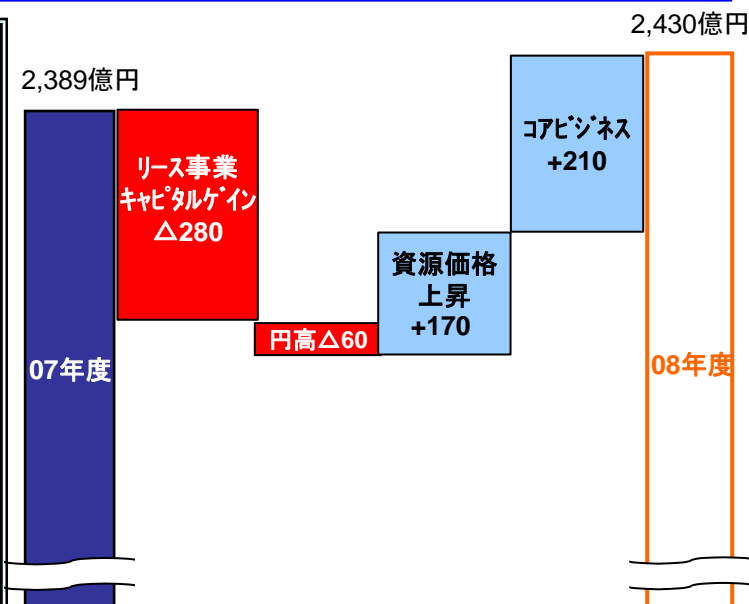
**サンクリストバル銀・垂鉛・鉛鉱山に係るヘッジ損益(07年度実績△221億円→08年度計画+38億円)

●純利益:

GG Planの当初計画2,350億円を上回る見通し

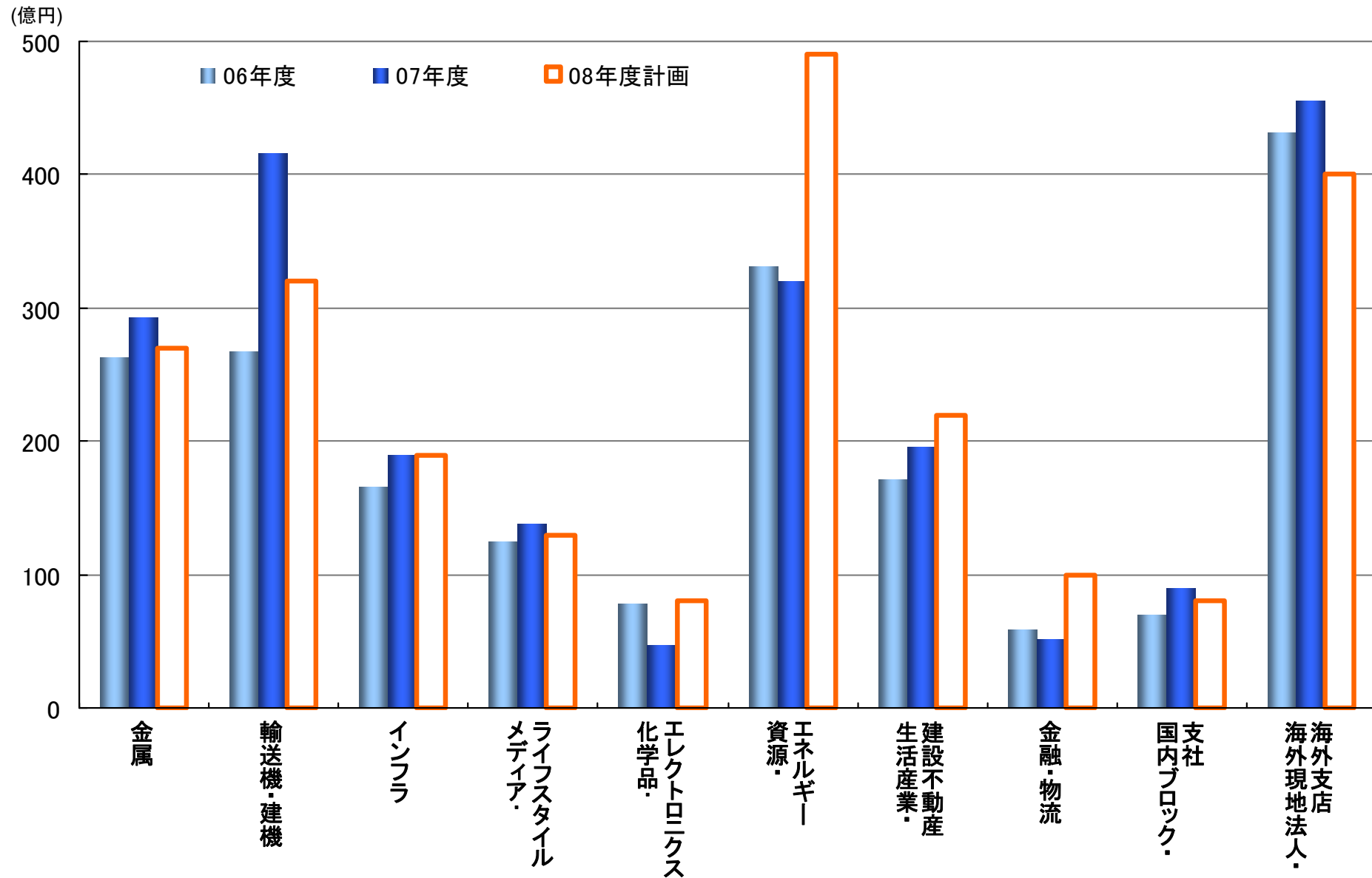
●基礎収益(除くヘッジ損益**):

10%程度の成長を見込む



2.2008年度業績見通し

③セグメント別連結純利益



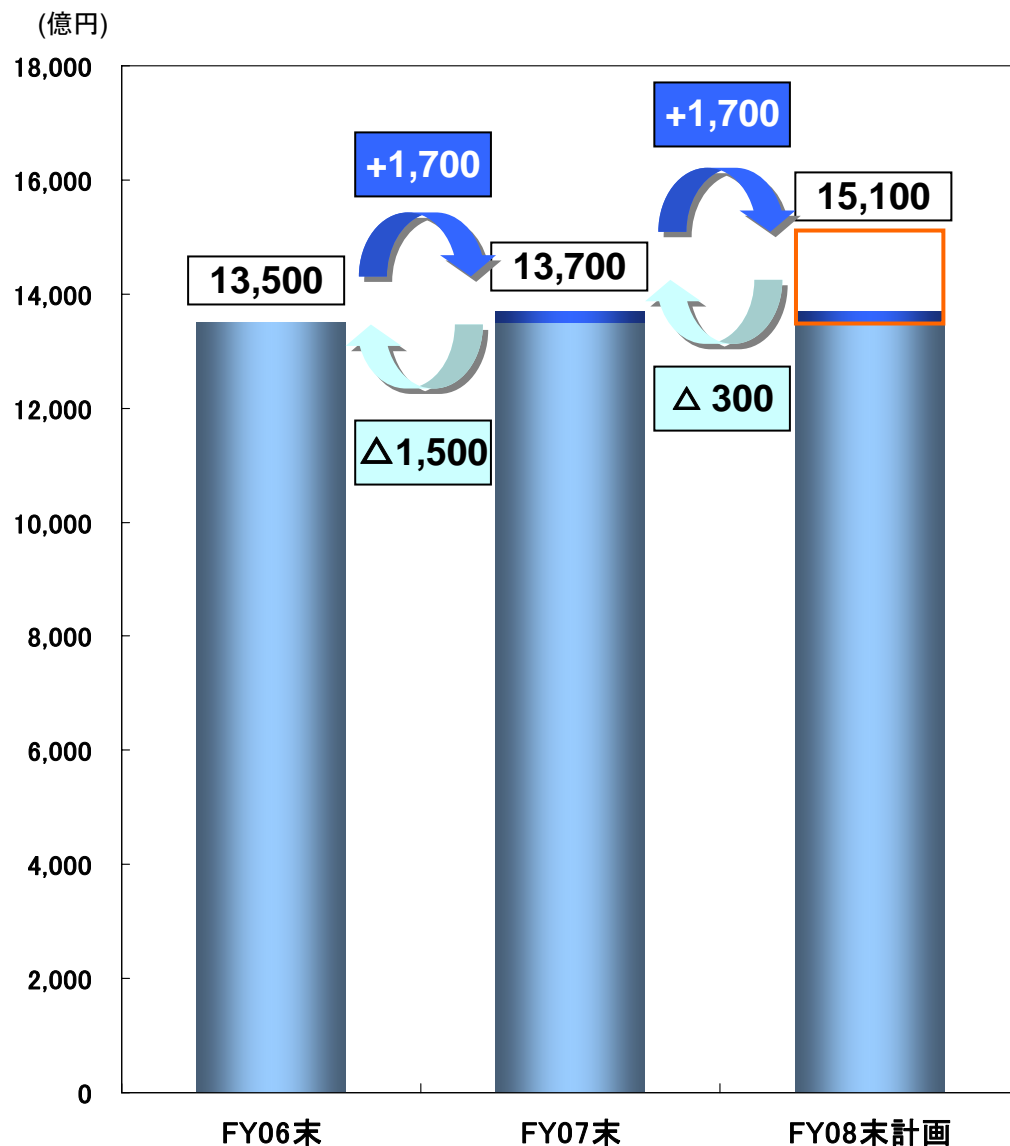
2.2008年度業績見通し

④主要経営指標

	07年度末		08年度末見通し
総資産	7兆5,714億円	【総資産:+3,000億円】 ●戦略的投資による増加等	7兆9,000億円
株主資本	1兆4,927億円		1兆6,900億円
株主資本比率	19.7%		21.4%
有利子負債 (Net)	3兆2,476億円		3兆3,700億円
DER (Net)	2.2倍		2.0倍
ROE	16.1%		15.3%
ROA	3.0%		3.1%

3.GG Planの進捗状況

①リスクアセット積み増しの進捗状況



計画 : +2,800億円 (Net)

- ・見通し : 約+1,600億円 (Net)
- ・増加 : 約+3,400億円
> 戦略的投資等による増加
- ・減少 : 約 Δ 1,800億円
> 資産入替等 : Δ 1,100億円
> 円高・株安 : Δ 700億円

3.GG Planの進捗状況

②リスクアセット積み増し状況(2年間グロス)

セグメント	(億円)	2007年度実績	2008年度計画
金属	140	Howco子会社化 住友金属株式買い増し	ブラジル鋼管新ミルへの出資 スチールサービスセンター網の拡充
輸送機・建機	850	住友三井オートサービス設立 エース・オートリース買収	建機:事業展開強化 船舶・車輛:ポートフォリオ拡充
インフラ	330	太陽光発電事業(スペイン) 地域冷房事業(UAE)	IPP/IWPP事業拡充 海外通信事業強化
メディア・ ライフスタイル	410	ジュピターショップチャンネル子会社化 J:COM基盤拡大(JTV統合等)	J:COM基盤拡大 リテール事業拡充(TV・Web通販等)
化学品・ エレクトロニクス	90	Cantex新工場立ち上げ 薄型TV基板実装事業(北米)	EMS事業強化 農薬事業拡充
資源・ エネルギー	1,120	アンバトビーニッケル(マダガスカル)開発開始 アソマン鉄鉱石(南ア)権益買い増し	アンバトビーニッケル(マダガスカル)推進 新規上流権益の取得
生活産業・ 建設不動産	110	テルネリス出資引き上げ 不動産新規ビル取得	テルネリス工場建設 不動産新規物件取得
金融・物流	30	ガリアプラスへの出資 第二タロン工業団地(ベトナム)開発	投資開発ビジネス強化 リース事業強化

3.GG Plan - 収益基盤の拡大①

【金属】[ソリューションプロバイダーとしての機能強化]

【事業環境】

- ・旺盛な油田開発
- ・中国、インド等新興国で自動車生産が拡大

【進捗状況】

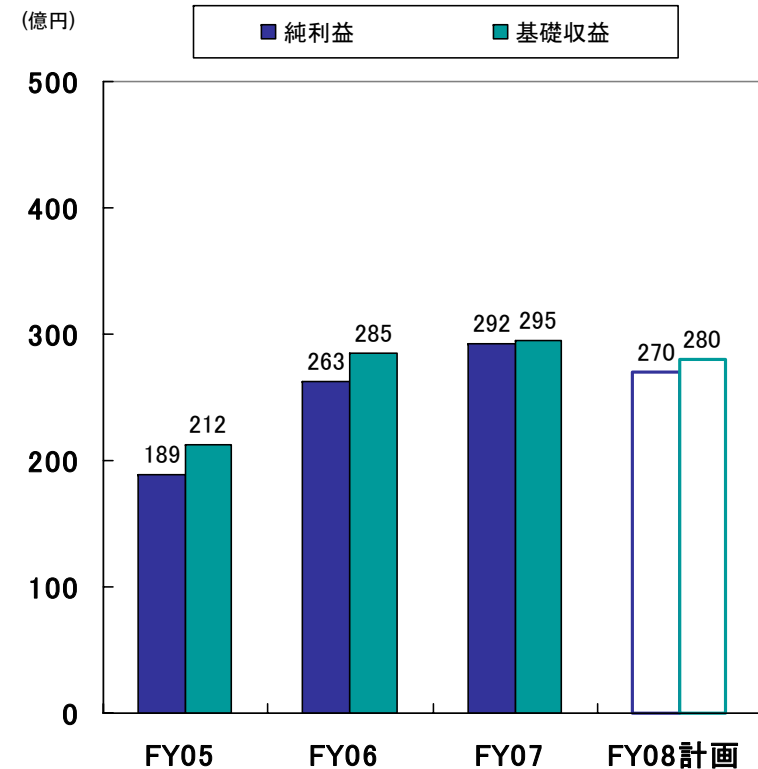
エネルギー・自動車分野に経営資源を投入

- ・鋼管:油井管及びその周辺分野で事業基盤拡大
>HOWCO子会社化/ブラジル鋼管新ミルへの出資決定
- ・自動車用鋼管製造事業進出(インド)
- ・スチールサービスセンターのグローバル網強化

(注:青字は実施済み案件)

【業績動向】

- ・業績は堅調に進捗
- ・グローバルな需要拡大の取り込み



3.GG Plan - 収益基盤の拡大②

【輸送機・建機】[バリューチェーンの拡充]

【事業環境】

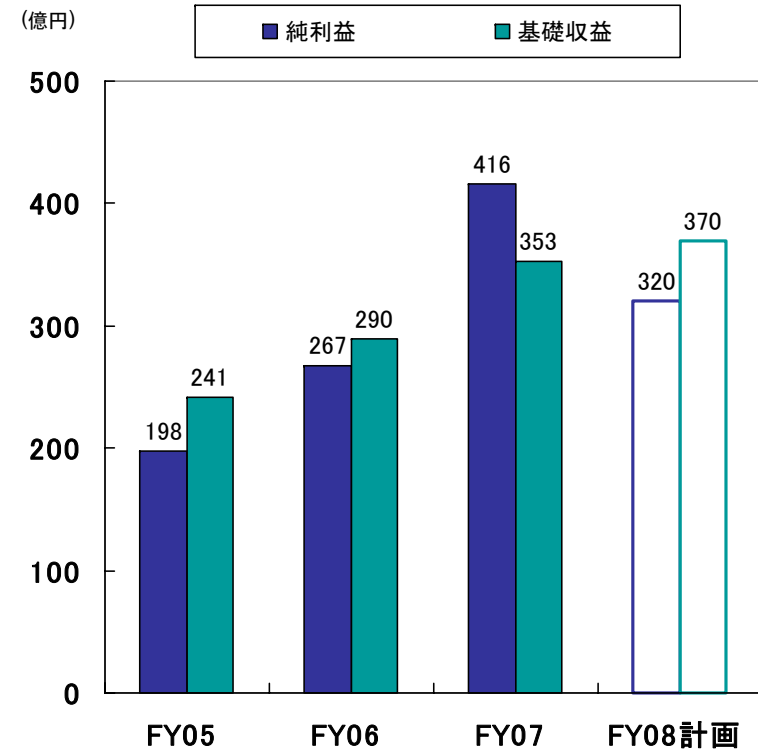
- ・新興国での自動車市場の拡大
- ・中国・ロシア・中東欧諸国における好調な建機市場
- ・海運市況好調

【進捗状況】

- ・自動車
 - >住友三井オートサービス発足(規模の拡大・収益性向上)
 - >製造事業海外展開(インド:キルウ進出、スワジiland製バス)
 - >自動車卸売事業強化
(トヨタ・ウクライナ、三菱・スウェーデン、フォード・中欧)
- ・建機
 - >代理店事業の更なる拡充(欧州、カナダ、中国、ロシア)
 - >レンタル・中古建機、製造用部品SCMの海外展開
- ・船舶・航空宇宙・車輛
 - >ポートフォリオ拡充及び継続的な資産入替

【業績動向】

- ・新興国を中心に収益基盤が更に拡充
- ・基礎収益は順調に拡大



3.GG Plan - 収益基盤の拡大③

【インフラ】[安定した収益基盤の強化・拡充]

【事業環境】

- ・新興国を中心に旺盛な電力需要

【進捗状況】

- ・コアビジネスの強化・拡充

>IPP/IWPP:アジア、中東、米国で更なる拡充

- AMATA POWER(タイ)権益取得

>EPC:コア市場(アジア)の深耕と環境関連プロジェクト推進

- Tanjung Bin(マレーシア)完工
- 地熱発電所建設(インドネシア、ニュージーランド)

- ・新規コアビジネスの育成

>水事業 :下水処理事業(メキシコ)、地域冷房事業(UAE)

>通信事業 :海外での新規投資とバリュー実現

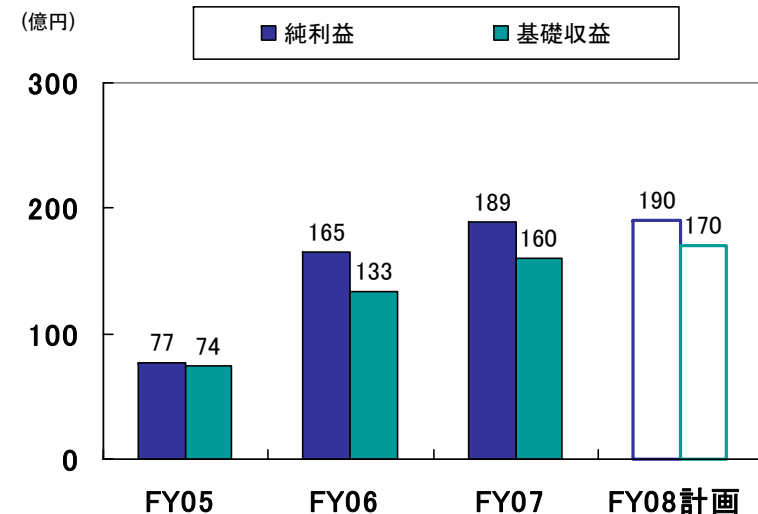
>環境・省エネ:太陽光発電事業(スペイン)

【業績動向】

- ・純利益200億円レベルの収益基盤を確立



IPP事業の強化で更なる拡大も視野に



3.GG Plan - 収益基盤の拡大④

【メディア・ライフスタイル】[コアビジネス強化／ウェブリテイル推進]

【事業環境】

- ・放送と通信の融合による環境の変化
- ・消費者行動・ニーズの多様化

【進捗状況】

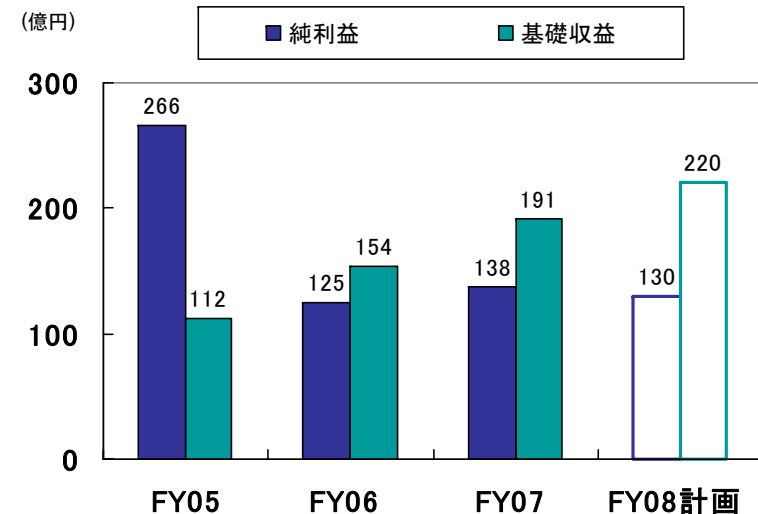
- ・メディア／ネット／リテイルの融合による
 コンシューマ向けビジネスの強化・拡大
 - > ジュピターショップチャンネル子会社化
 - > 既存リテイルビジネスのEコマース化推進
- ・J:COMの基盤拡大・サービス向上による収益力強化
 - > JTV統合によるコンテンツ力強化
 - > M&A推進による広域運営強化
 - > コミュニティ総合サービス強化
- ・コアビジネスの拡充
 - > 住商情報システム基盤強化
 - > サミット店舗拡充による成長戦略推進

【業績動向】

- ・一層の選択と集中による収益基盤の改善



基礎収益力の着実な成長により
純利益200億円レベルを目指す



3.GG Plan - 収益基盤の拡大⑤

【化学品・エレクトロニクス】[グローバルネットワーク拡充]

【事業環境】

- ・北米での小売・住宅関連ビジネスは低調
- ・エレクトロニクス業界における競争激化(規格競争・技術革新等)
- ・石油化学・無機原料価格の高騰と高止まり

【進捗状況】

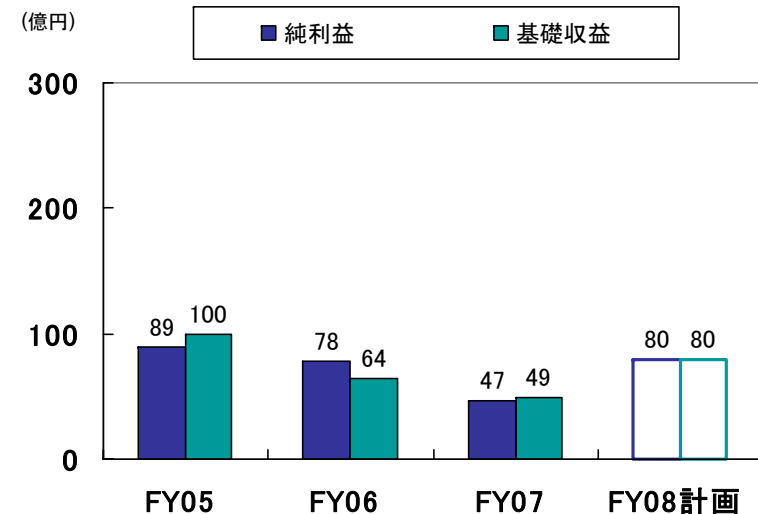
- ・コアビジネスの収益改善と基盤の強化
 - >Cantex :新工場立ち上げ、新製品投入
 - >スミロニクス:北米での薄型TV基板実装事業立ち上げ
 - >ペットケア :新商品開発・投入(ハミ・ダニ剤) (Hartz)
獣医ルートの開拓 (Summit VetPharm)
 - >無機原料:ソーダ灰、硫黄・硫酸などのトレード機能強化
 - >農薬 :販売網のグローバル展開(ロシア、豪州)

【業績動向】

- ・収益基盤の再構築
資産入替えによる収益性の改善
グローバル展開の推進



純利益100億円レベルを目指す



3.GG Plan - 収益基盤の拡大⑥

【資源・エネルギー】[バランスの取れた上流権益の拡充]

【事業環境】

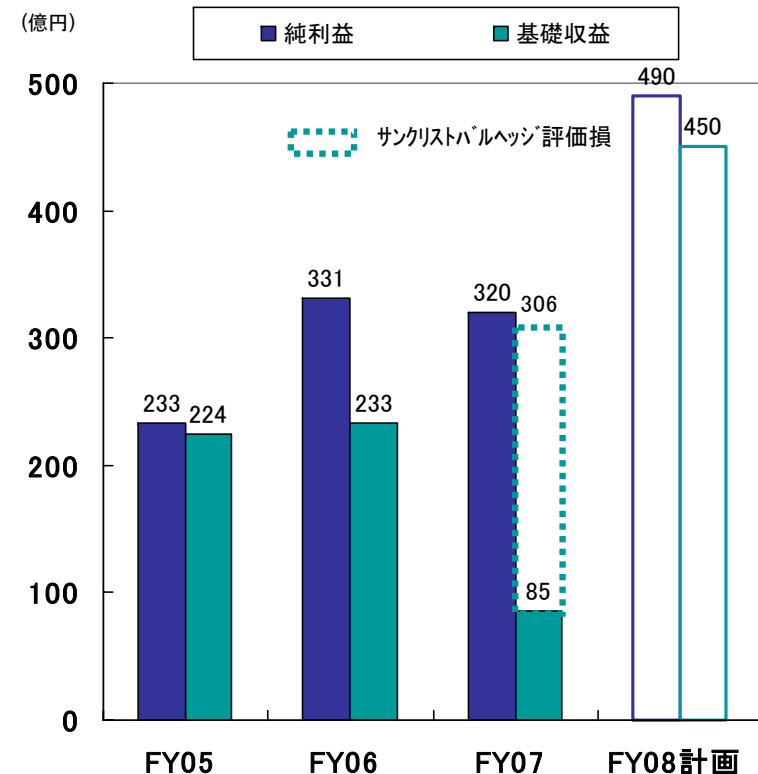
- ・新興国の経済成長による需給のタイト化
- ・資源保有国での資源ナショナリズムの増勢

【進捗状況】

- ・既存4本柱(銅、石炭、石油、LNG)の増強
 - >銅事業での順調な操業と収益貢献
 - >豪州未開発炭鉱の開発着手
- ・新たな収益の柱の構築
 - >銀・亜鉛・鉛 : サンクリストバル生産・出荷開始
 - >ニッケル : アンバトビー開発開始
 - >鉄鉱石・マンガン : (南ア)アソマン社株式の追加取得
- ・資産入替えによる選択と集中
 - >LPG事業の事業統合、住商石油

【業績動向】

- ・石炭価格の上昇により08年度は増益
- ・500億円規模の安定した収益基盤の構築



3.GG Plan - 収益基盤の拡大⑦

【生活産業・建設不動産】[競争優位性を持つ事業の強化]

【事業環境】

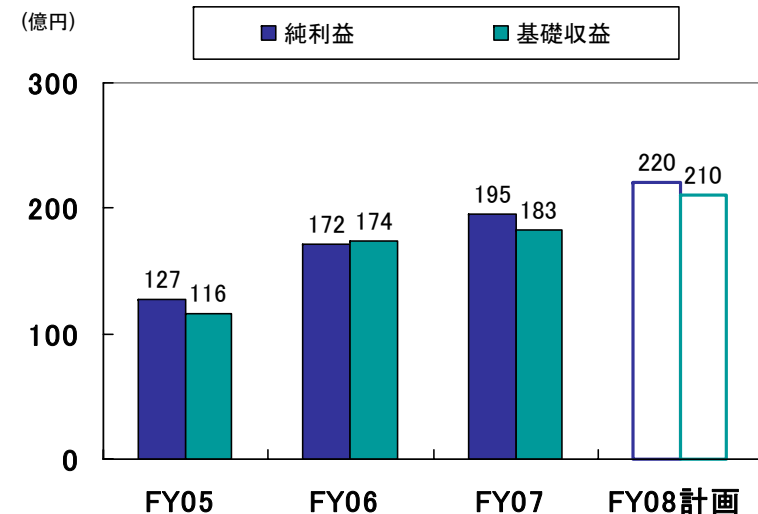
- ・オフィスビル賃料相場／都心部マンション市場堅調
- ・北米タイヤ市場はほぼ横ばい
- ・原材料価格は上昇

【進捗状況】

- ・不動産
 - >ビル・商業施設：新規資産の積み増しと入替えによる収益の維持・拡大
 - >住宅：首都圏・関西の大型複合開発案件を中心に高収益維持(THE TOKYO TOWERS等)
- ・資材
 - >タイヤ：TBCの成長戦略推進(直営店拡充、サービス売上拡大、商品ラインアップ拡充)
 - >木材：ロシア材加工事業推進(フェルネレス)
- ・食料
 - >バナナ：生産基盤拡充に向けた取り組み

【業績動向】

- ・不動産事業は高水準を維持
- ・資材・食料の収益性改善に注力



3.GG Plan - 収益基盤の拡大⑧

【金融・物流】[機能とサービスの高度化]

【進捗状況】

・金融

- >アセットマネジメント：当社に強みのある分野にフォーカス
- >コモディティ：顧客基盤・取扱商品の拡大
- >投資開発：成長市場・企業への投資拡大

・物流

- >物流：グローバルネットワークの強化
- >海外工業団地：ベトナムタンロン工業団地拡充

【トピックス】

・リース事業部新設

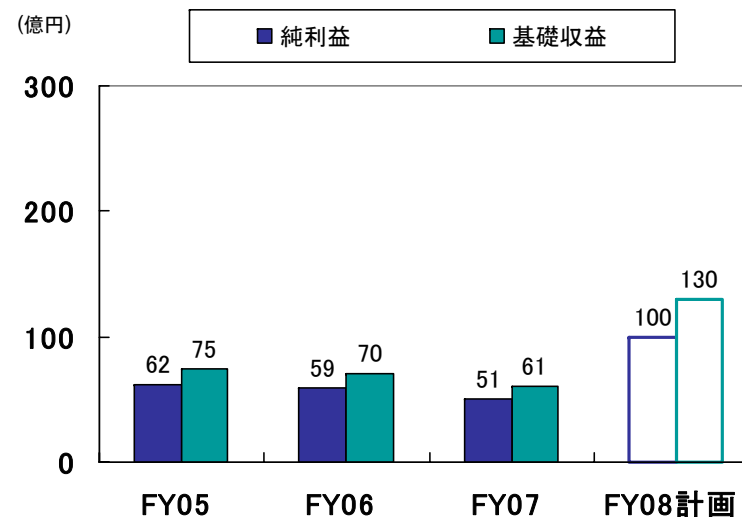
- >三井住友ファイナンス&リース(SMFL)関連事業の移管

[今後の戦略]

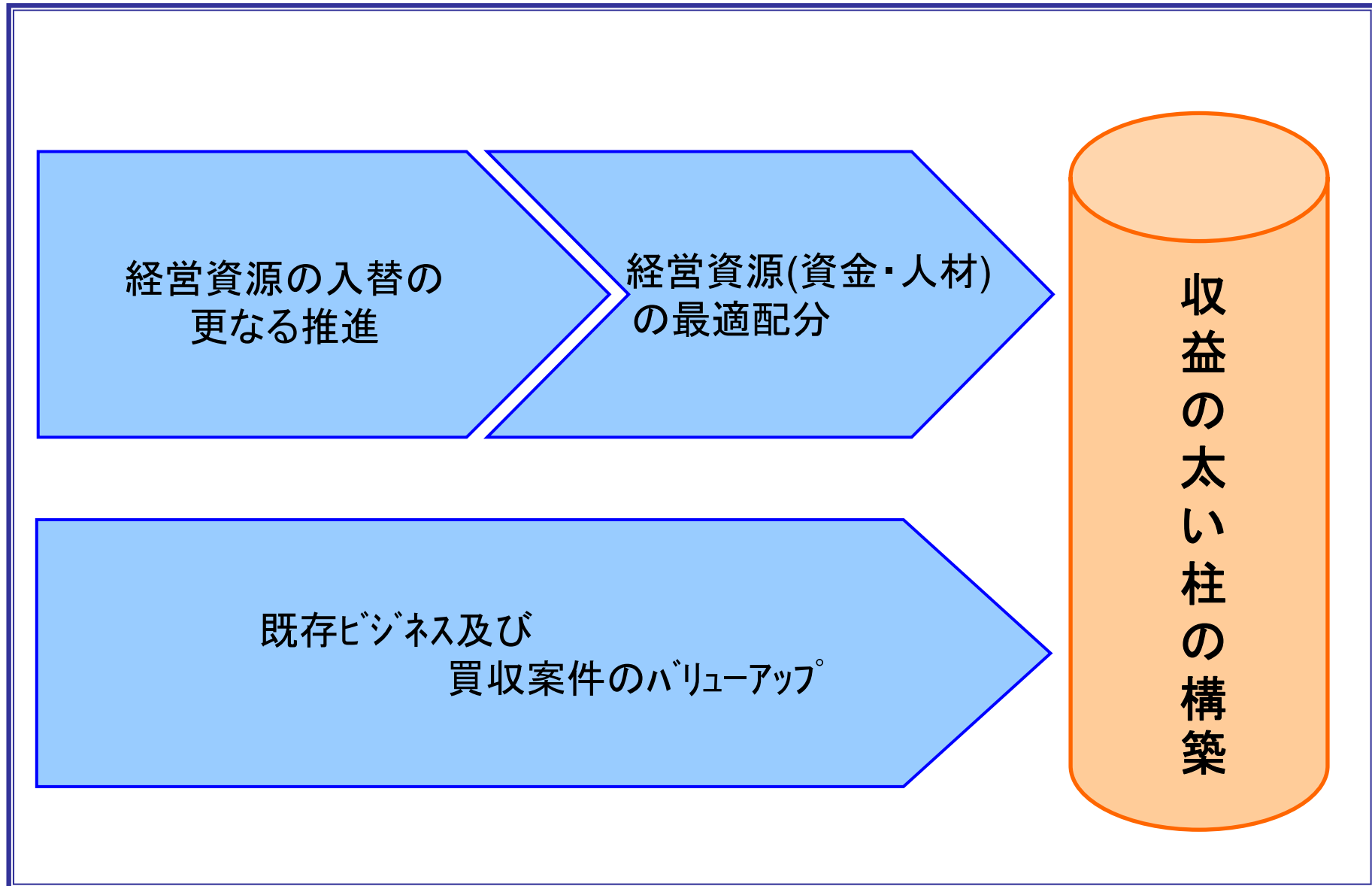
- SMFL統合後のハリュースアップ推進
- 当社／SMFL／三井住友フィナンシャルグループの提携を推進
→航空機リース事業 等

【業績動向】

- ・アセットマネジメント、物流事業に注力
- ・リース事業部新設による影響+45億円含む



4. 収益基盤の質の向上①



4.収益基盤の質の向上②<更なる選択と集中(1)>

■事業会社の入替推進

■連結事業会社数

05年度末		06年度末		07年度末
875社	$\left(\begin{array}{l} +135 \\ \Delta 112 \end{array} \right)$	898社	$\left(\begin{array}{l} +85 \\ \Delta 150 \end{array} \right)$	833社

「収益性」「成長性」「戦略性」
の観点から見直し

有限な経営資源(リスクアセット・人材)の有効活用

- 対象会社:250社程度
- 実施状況:07年度末までに約100社を統廃合

4. 収益基盤の質の向上③ < 更なる選択と集中(2) >

■ 実施事例の紹介

【売却】

- 住商オットー(メディア・ライフスタイル) : テレビ通販事業へ経営資源を集中
- 住商石油(資源・エネルギー) : 川上・川中に経営資源集中

【統合】

- 住商LPG(資源・エネルギー) : 昭和シェルのLPG事業と統合し、収益基盤を強化

【入替】

- 海外自動車ディーラー事業(輸送機・建機) : 成長市場への経営資源のシフト
- 賃貸ビル事業(米国) : バリューストックの実現

4.収益基盤の質の向上④<既存ビジネスのバリューアップ>

■大口投資案件のバリューアップ

■ハーツマウンテン

課題：商品競争力の低下

施策：主力商品のミ・ダニ剤等、新商品の投入

■TBC Corporation

課題：市場環境の変化に対応した成長戦略の推進

施策：直営店の出店強化、フランチャイズ店舗の収益改善、
仕入ソースの多様化

■ジュピターショップチャンネル

課題：事業環境の変化で収益力が低下

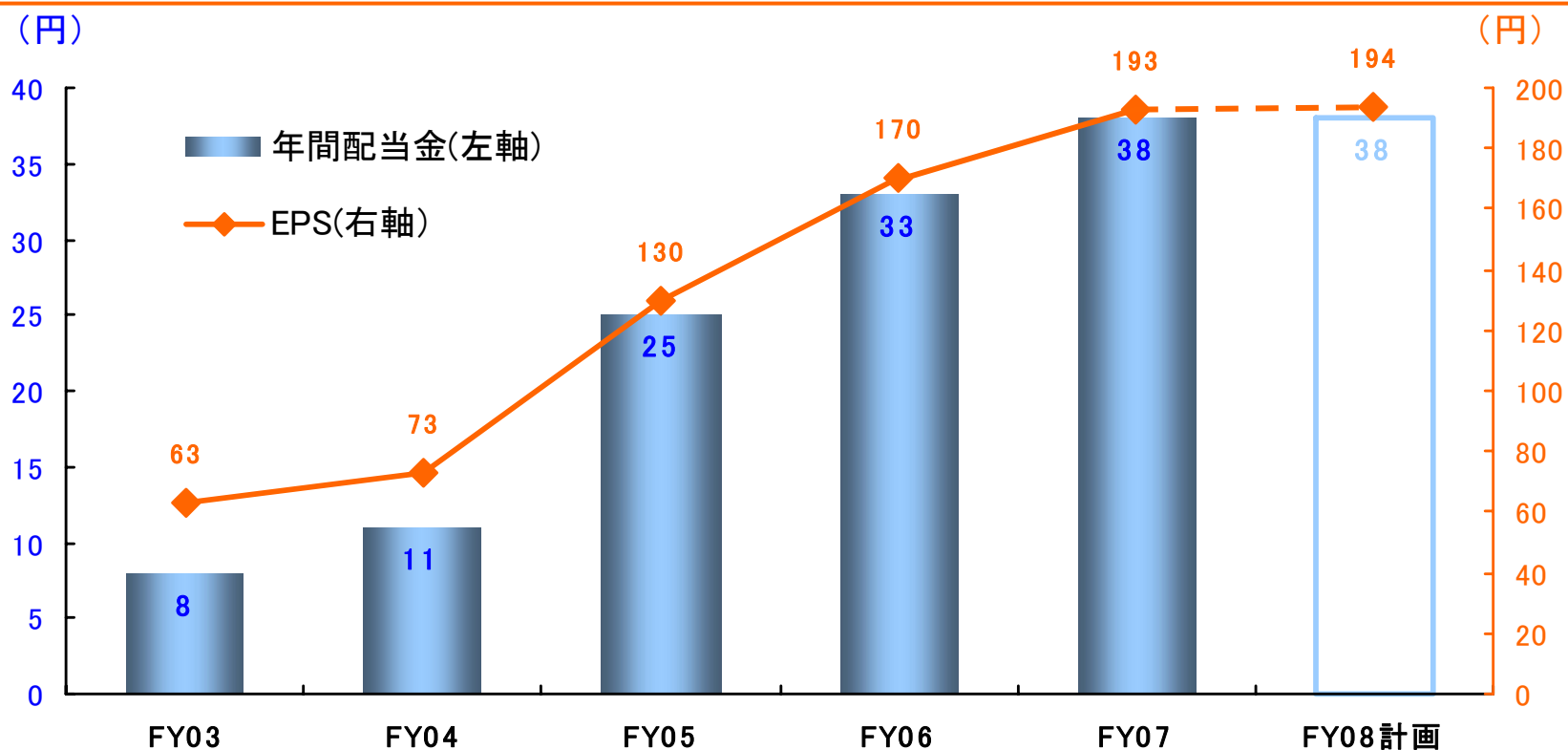
施策：商品力・販売力の強化

販売チャンネル・顧客層の一層の拡大

5.株主還元

配当方針:GG Plan中は、配当性向20%を目処

- ・07年度:年間配当金は一株当たり38円
- ・08年度:純利益年間見通し2,430億円を達成した場合
⇒ 予想年間配当金38円

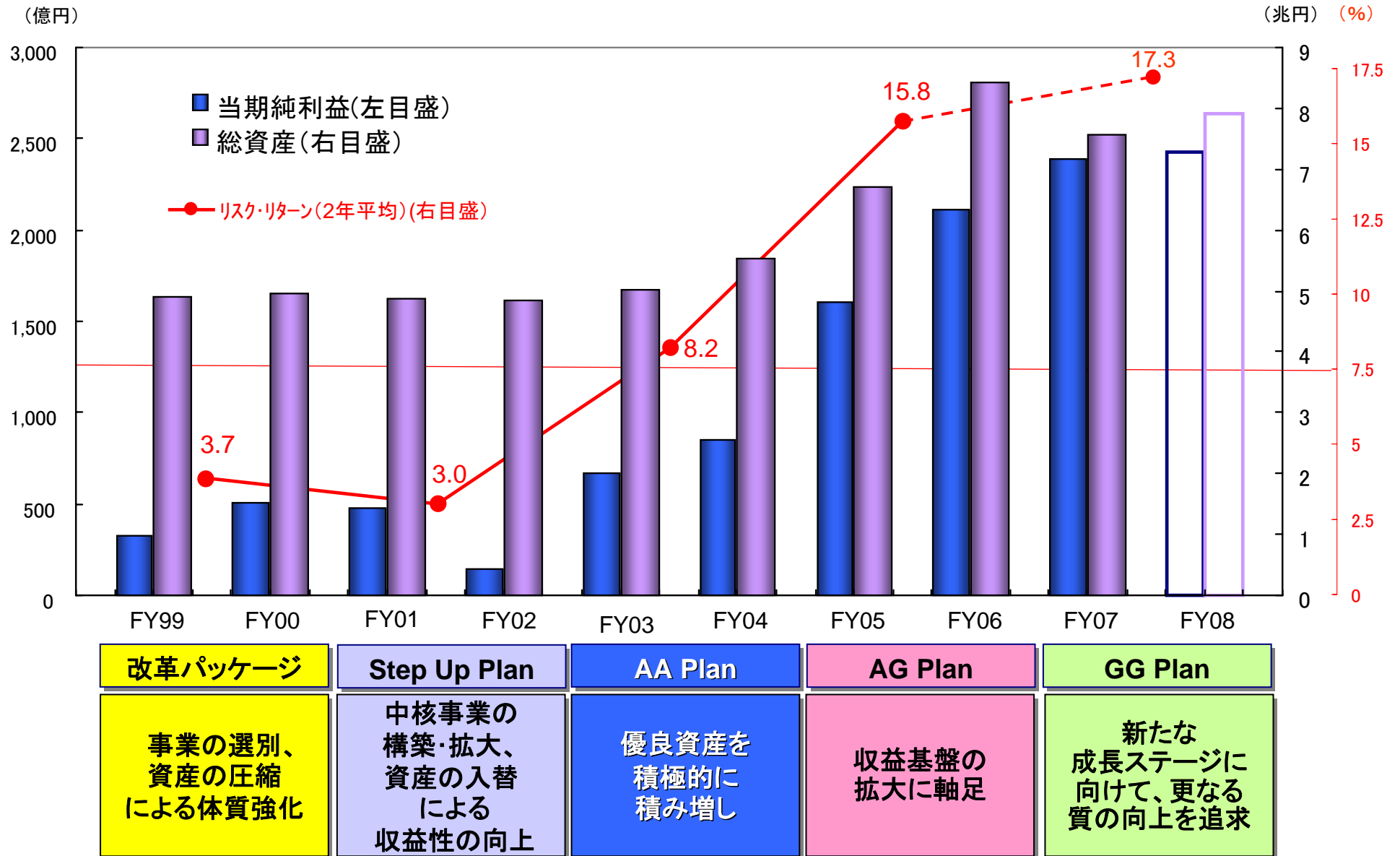


結び

持続的成長に向けて・・・

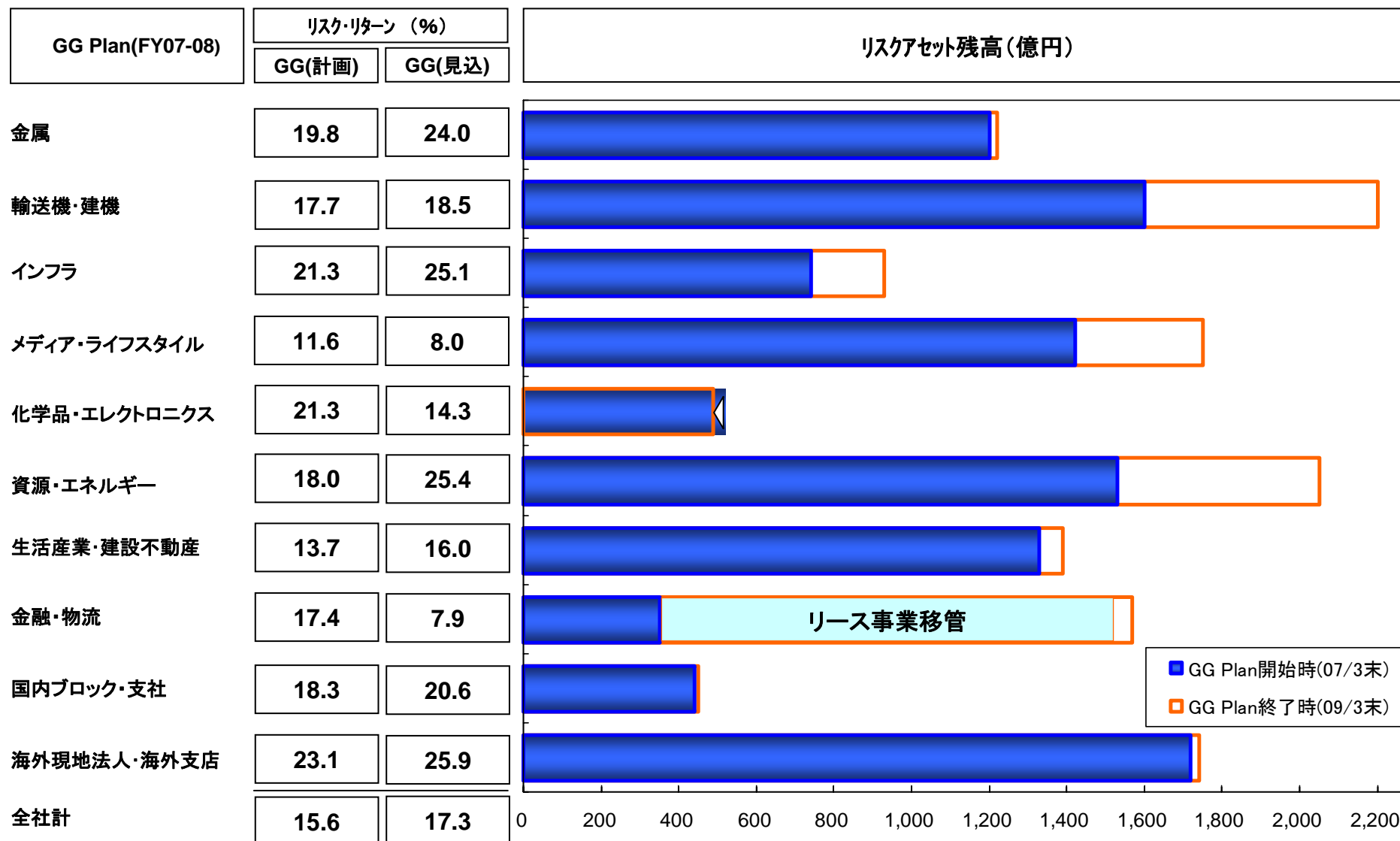
(参考資料)

①中期経営計画の推移



(参考資料)

②セグメント別リスクアセット／リスク・リターンの見通し



注)リスク・リターンは2年平均